

大地の芸術祭開催によるアート作品で里山景観再認識のきっかけに

19. 越後妻有地域【新潟県十日町市、津南町】

範 囲	新潟県南端に位置する、760km ² におよぶ広大な里山。	
所 在 地	新潟県十日町市、津南町	
生 物 地 理 区 分	ミズナラ林	
環 境 要 素	水田(), 二次林、草地、畑、小川・水路、ため池、池沼・湿地、社寺林、屋敷林、人工林、その他	
自然条件	地 形	東の魚沼丘陵、西の東頸城丘陵の山々が連なり、中央部には信濃川が南北に流れ、十日町盆地とともに雄大な河岸段丘が形成されている。
	植生・生物等	冬には2mを超える積雪がある日本有数の豪雪地域。 ブナ林、溪谷、峡谷、高原、湿原など多様な自然を有する。 地形的・地質的特徴により、棚田の風景は山ひだの細かい支流沿いに奥深くまで連なる。
社会条件	人口(市町村)	十日町市 58,926 人(農家率 29.5%、副業的兼業農家が多い) 十日町市のデータ(H22年) 津南町 10,914 人(農家率 49%、副業的現業農家、自給的農家が多い) 津南町のデータ(H22年)
	土 地 利 用	市総面積の 12.1%が田畑、67.7%が山林である。 十日町市のデータ(H22年) 町総面積の 17.8%が田畑、64.8%が山林である 津南市のデータ(H22年) 対象地区の西部中山間地域には渋海川が南北に流れ、流域には 200 を越える集落が点在し、棚田などにより美しい農山村の景観を呈している。
	歴 史 ・ 文 化	1500 年もの長きにわたり農業を通し大地と関わってきた越後妻有の景観・生活・コミュニティは四季の変化に彩られた山河によって育まれた日本の原風景、心の故郷とも言うべき典型的な「里山」として、今も豊かに残っている。
法指定、行政による評価の状況	自然環境・景観保全や国土保全に関わる地域指定等	国立公園
	すぐれた自然、景観、伝統文化などとしての選定	環境省「名水百選」に選定(S60) 農水省「日本の棚田百選」(H11) 農水省「農村景観 100 選」に選定(H3) 朝日新聞社、(財)森林文化協会「にほんの里 100 選」に選出(H21) 重要有形民俗文化財 重要無形民俗文化財(国指定)



撮影時期：
信濃川と河岸段丘(「大地の芸術祭」HPより)

取組主体	タイプ	連携組織: 多様な主体の連携組織による取組		
	主な主体	名称	概要	
		大地の芸術祭実行委員会、NPO 法人越後妻有里山協働機構 ほか	大地の芸術祭実行委員会は、平成 10 年に設立された組織であり、実行委員長は十日町市長が、副実行委員長は津南町長が務める団体である。新潟県、地元商業団体や旅館組合など、様々な団体から約 100 名から組織される。 NPO 法人越後妻有里山協働機構は、2008 年に地域内外の関係者により設立され、「大地の芸術祭」を軸に、地域のアイデンティティの確立、雇用創出、里山保全などの活動を実施	
経緯	新潟県が6つの広域行政圏を対象に新たな広域地域づくりを行うプロジェクトとして「ニューにいがた里創プラン」を開始。その一環として越後妻有地域の旧6市町村(十日町市、川西町、津南町、中里村、松代町、松之山町)が連携して地域の活性化を図る「越後妻有アートネックレス整備事業」がスタートした。この事業の1つとしてスタートした「大地の芸術祭 越後妻有アトリエンナーレ」は、地域資源を活用した活性化を図るため、越後妻有地域の全域(約 760k m ²)を芸術の舞台に見立て、そこに地元住民と世界の第一線で活躍するアーティストとの協働によって現代アート作品を設置・展示するプロジェクトである。芸術祭のコンセプトは「人間は自然に内包される」であり、目的は「交流人口の増加」・「地域の情報発信」・「地域の活性化」の3つである。 第一回目の芸術祭が2000年に開催され、その後3年ごとに開催されている。2012年には第五回目が開催される予定である。また、この期間の間にも、様々な関連イベントやプログラムが開催されている。			
支援措置	該当なし			
取組の目的・目標	人間と自然がどう関わっていくかという可能性を示すモデル地域となることを目指して、越後妻有の地域づくりが進められている。			
取組分野内容	農林業を通じた里山や草地の利用(管理)の維持・活性化	該当なし		
	バイオマスなど新たな資源としての利用	【対象となる資源】 該当なし		
	環境教育や自然体験、エコツアーの場としての利用	自然観察会		
		環境教育・学習活動		
		里地里山体験・環境保全	里山体験ツアー 暮らしの達人「野の師父」と遊ぼう!学ぼう!	
		農林業体験活動	「まつだい棚田バンク」: 地域外の在住者が棚田の里親(オーナー)となり、農作業に参加する代わりに配当米を受け取る仕組みである。里地里山の保全活動に誘う仕組みとして機能しており、現在は約 100 組が参加している。	
		エコツアー その他		
	野生動植物やその生息地の保全・管理	該当なし		
	地域の良好な景観の保全・修復	芸術祭をきっかけとした棚田耕作の継続による景観の維持		
	里地里山の伝統的な生活文化の知恵や技術の継承	対象	生活行事	
資源利用技術			「Rooots 越後妻有の名産品リデザインプロジェクト」: 伝統的な地域産品と全国の若手クリエイターのマッチングを行い、パッケージデザインを一新するなどして既存商品の新たな魅力を引き出す取り組み。	
その他			里山体験ツアー 暮らしの達人「野の師父」と遊ぼう!学ぼう!	
木の実や山野草の活用術、お米づくりのいろは等				
連携・協働	<ul style="list-style-type: none"> ・十日町市・津南町...大地の芸術祭事業の全体管理、住民とアーティストの調整等 ・(株)アートフロントギャラリー...アートマネジメント、作品制作監理 ・参加アーティスト...設置場所の特性を生かしたアート作品制作 ・住民ボランティア、地域外サポーター...アート作品の制作協力など ・NPO法人越後妻有里山協働機構...芸術祭の運営協力、ボランティア・サポーターの組織化 			



Supported by Benesse Corporation

© ANZAI



© ANZAI

撮影時期：2001年8月

「大地の芸術祭越後妻有アトリエンナーレ 2000」でイリヤ&エミリア・カバコフが制作したアート作品「棚田」。棚田の風景と農作業をかたどった彫刻、四季の農作業を描写したテキストが一体となっている。

撮影時期：2006年8月

2003年にカサグランデ&リントーラ建築事務所が制作した作品「ポチョムキン」。釜川の土手に立つ巨大なコルテン鋼の壁。長年ゴミが不法投棄されていたかつての子どもの遊び場は、禅庭、ブランコ、東屋など趣の違う空間が連なる美しい公園へと変貌した。

景観としての 利用・評価

芸術祭に対する全国的な関心や評価の声がマスコミ等を通じて地域住民に伝ったこと、そしてサポーター集団「こへび隊」の熱心な活動により、徐々に理解と協力が拡大し、開催を重ねることに参加集落・会期中作品数・入込客数が増加し、様々な空間に作品が展開するようになった。また、地域住民の間で、アーティストや都市からの来訪者とのコミュニケーションを通じて、芸術祭の舞台である地域の景観や生活文化の素晴らしさが再認識されてきている。

取組の特徴

アートを媒介とした新しい形で里地里山の魅力を発信、里山景観の再認識につながっている。
「大地の芸術祭 越後妻有アトリエンナーレ」が開催され、棚田や農作業、地域の生活文化などをテーマにしたアート作品が里地里山の中に出現。参加アーティストは設置場所の特性を活かしたアート作品を制作、住民ボランティアや地域外サポーターは作品制作に協力する仕組みが作られ、地域内外の人々が里山景観を再認識するきっかけとなっている。

【参照資料】

「大地の芸術祭」HP (<http://www.echigo-tsumari.jp/>)

「越後妻有こどもサマーキャンプ 2008」開催チラシ

新潟県HP (<http://www.pref.niigata.lg.jp/>)